

麻疹排除に向けて
- 一地方衛生研究所から -

堺市衛生研究所 田中 智之

CBC News:

Dr. Perry Kendall said " However if you are going to Tokyo, and you weren't sure about your MMR [measles, mumps, rubella] status it would be a good idea to check with your physician or to check your records to be sure that you've had two doses."

He also noted that **it is not standard in Japan for children to get a second MMR booster shot.**

(2007年6月、カナダ修学旅行中に麻疹を発症した生徒1名を含む41名の日本人高校生・教員が、カナダ政府に出国延期された事件)



麻疹輸出国 日本

堺市の麻疹

平成11年12月

～

平成12年

平成11年 160人

平成12年 556人



麻疹全数報告数の推移

平成15年	:	19例
16年	:	3例
17年	:	2例
18年	:	0例
19年	:	203例
20年	:	41例
21年	:	8例

麻疹流行の推定感染経路

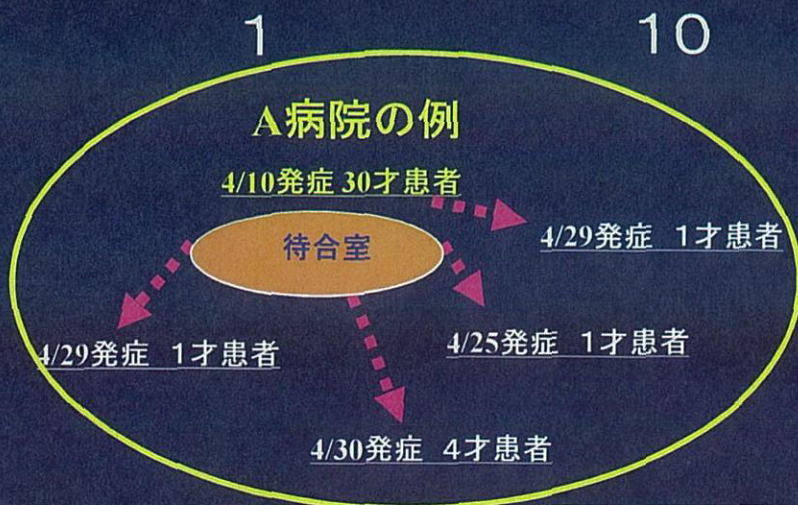
(平成19年)

集団感染

院内感染

家族内感染

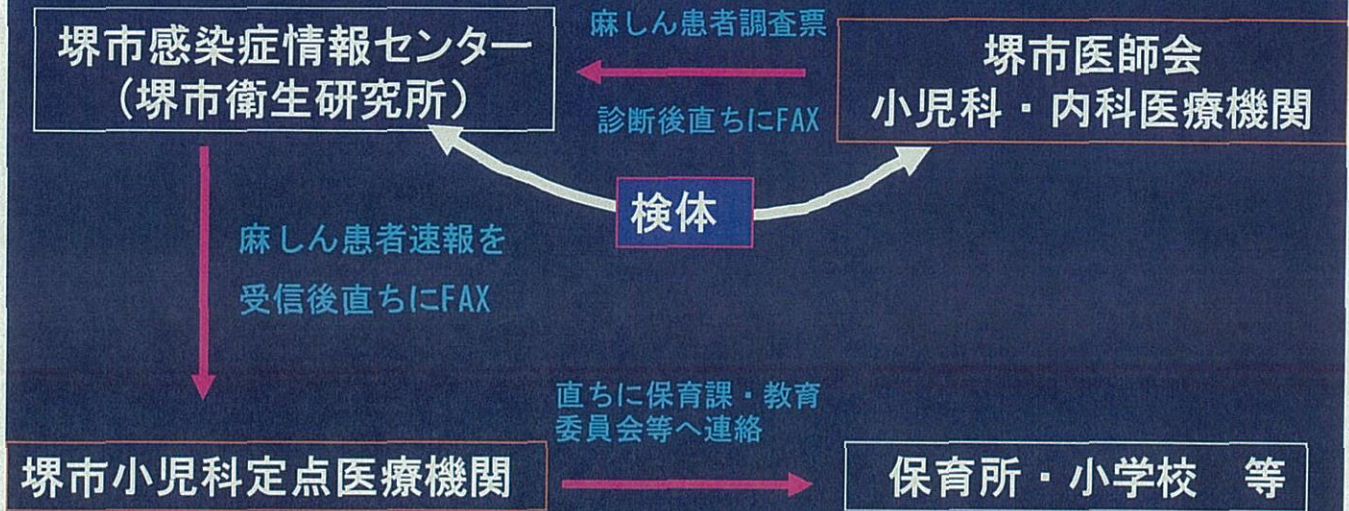
保育園	1
小学校	1
中学校	1
高校	4
施設	1
計	8



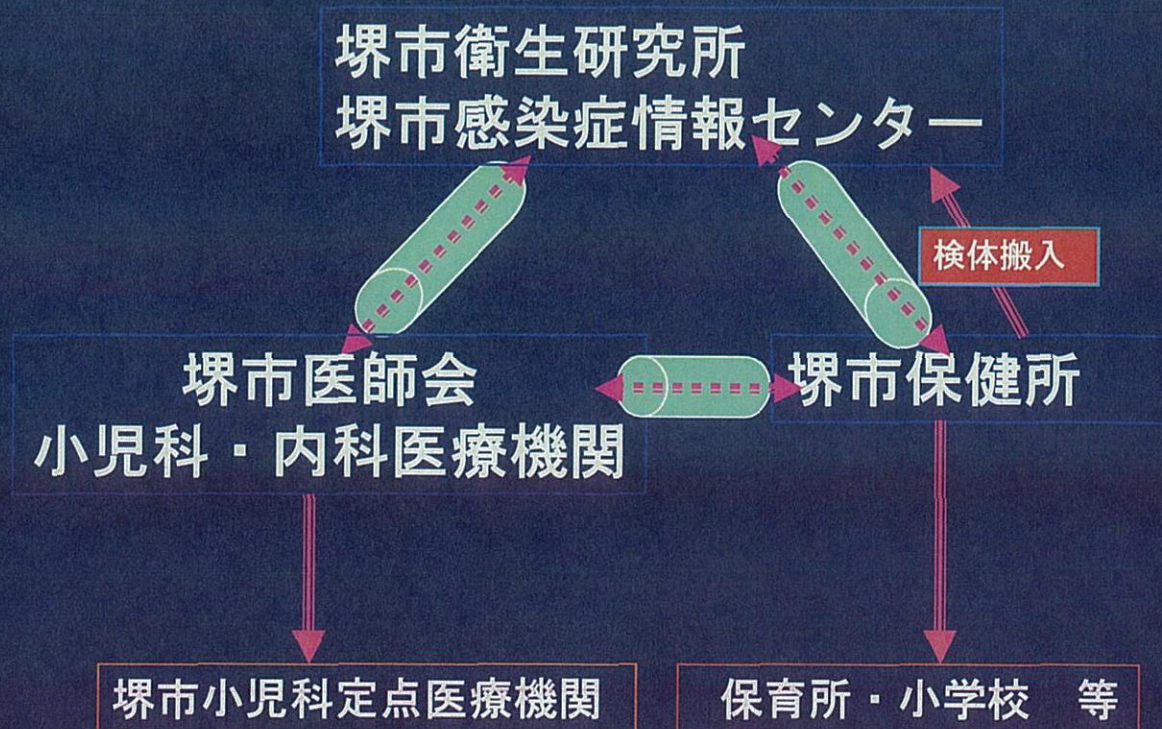
1 推定接触時間20数分 10

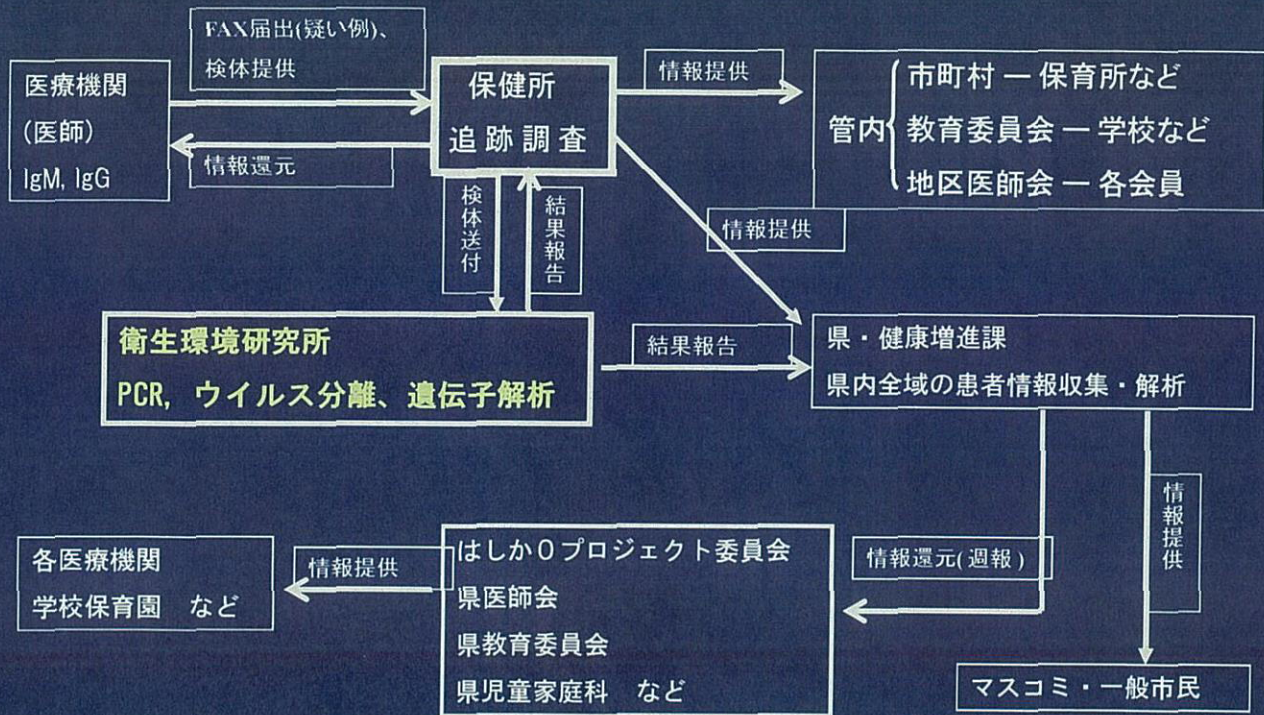
堺市における麻しん全数報告の流れ

(2003 ~ 2008.7)



その後の医師会、保健所、衛生研究所の連携 (2008.7 ~)





沖縄県 麻疹全数把握制度の概要

浜端宏英、知念正雄、平良勝也、譜久山民子、沖縄県はしかゼロプロジェクト (2008)

麻疹病原体サーベイランス

厚生労働省科学研究費補助金

「ウイルス感染症の効果的制御のための病原体サーベイランスシステムの検討」

麻疹ウイルス研究小班

(研究代表者 清水博之、研究分担者 駒瀬勝啓)

目的: ● 2012年麻疹撲滅に向けた国家的プロジェクト

● 2008～2010年に実験室診断の整備

◎ 全国地方衛生研究所に「研究班麻疹レファレンスセンター」の設置

◎ 地衛研の検査方法の統一化

① レファレンスセンターの役割: 検査技術の研修、IgM 抗体測定等

② 検査検体の統一: 鼻・咽頭ぬぐい液、全血液、尿 の3点セット

③ 遺伝子検査、積極的ウイルス分離による診断検査 等

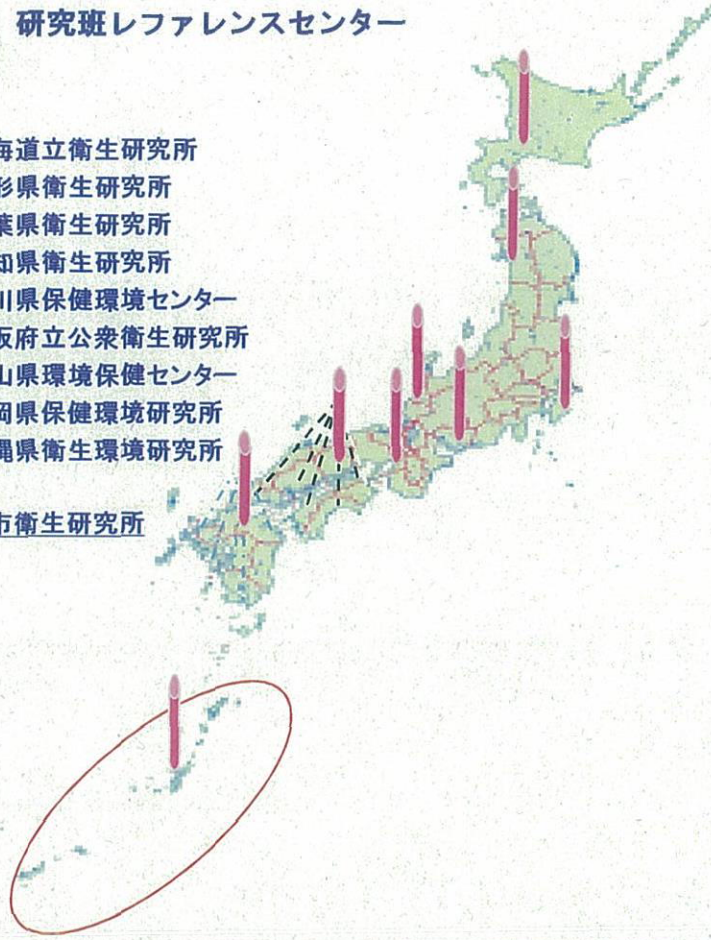
④ IgM抗体の判定困難 → 本邦ではRT-PCR法による診断を主眼

● 2010年～

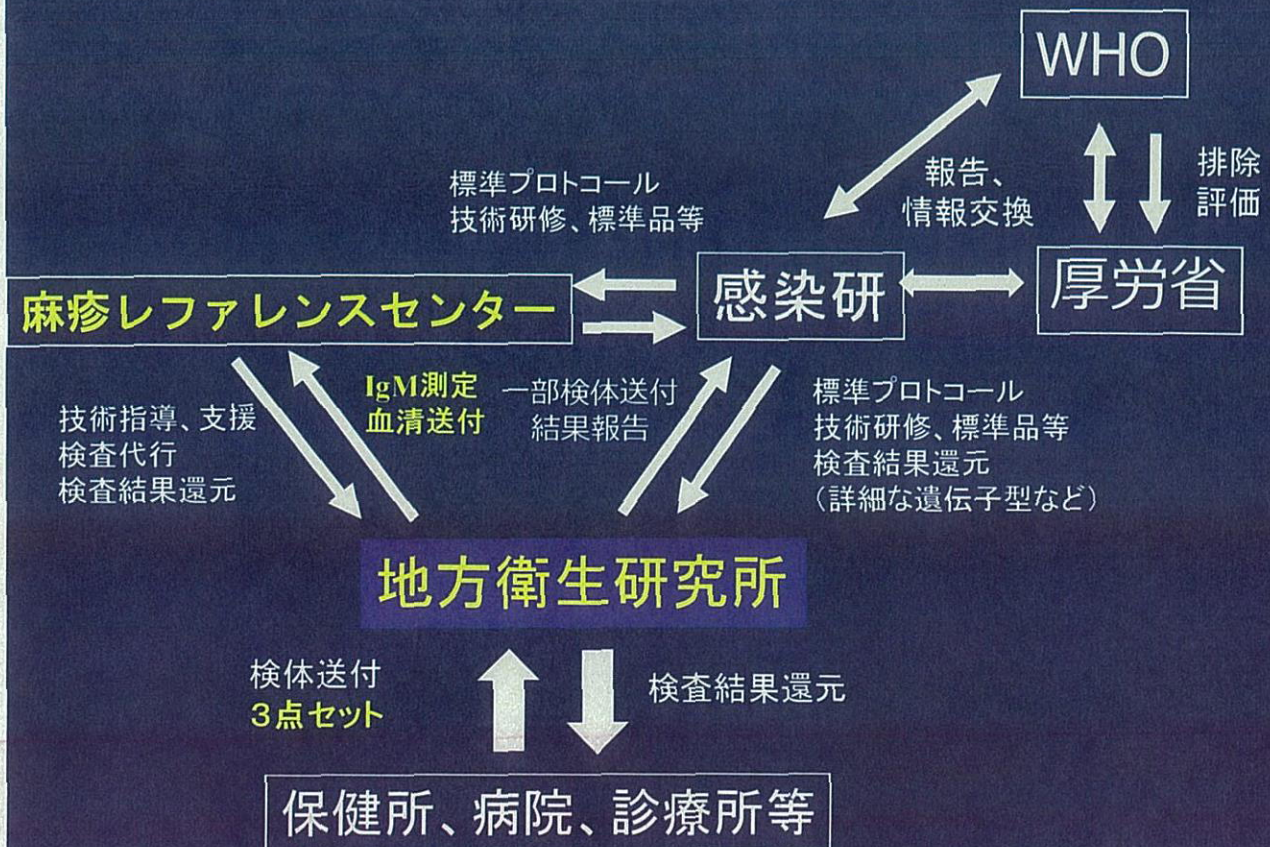
問題点の発掘・改良しつつ継続的な実践あるのみ

研究班レファレンスセンター

北海道立衛生研究所
 山形県衛生研究所
 千葉県衛生研究所
 愛知県衛生研究所
 石川県保健環境センター
 大阪府立公衆衛生研究所
 岡山県環境保健センター
 福岡県保健環境研究所
 沖縄県衛生環境研究所
 堺市衛生研究所



麻疹排除実験室内診断ネットワーク



麻しん診断分類

	PCR	抗体検査	ウイルス分離	臨床診断のみ
RT-PCR	46	3	11	
			1	
抗体検査		26		
ウイルス分離			1	
臨床診断のみ				28

(堺市 平成19年)

- 28例 (24.1%)からは臨床検体が提出されていない

●	平成20年	全数届け出	41例	臨床検体提出	17
●	平成21年	全数届け出	8例	臨床検体提出	0

まとめ

- 地方衛生研究所は麻しん排除に向けて、麻しん実験室内診断体制は構築されている。
- レファレンスセンターを中心に技術研修、情報交換を行っている。
- 確定診断に必要な臨床検体の採取・搬入が全ての患者に遂行されているわけではない。
- 全数届出基準を単なる患者の届出ではなく、確定検査のための臨床検体の提出の義務も併記すべきと考える。
- 保健所は麻しん排除対策現場での統括部門であり、検査部門の地方衛生研究所と密な連携・協力を計ることが重要と考える。